

諏訪地方の経済概況速報

平成25年3月

(平成25年2月末調査)

平成25年3月25日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【 1月】	諏訪公共職業安定所管内	0.73 倍	△0.08 ポイント	
手形交換高【 2月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	6,630 枚	△464 枚	
	金 額	8,269 百万円	△300 百万円	
	うち不渡り	枚 数	13 枚	12 枚
	発生状況	金 額	11,078 千円	10,078 千円
電力使用量【 2月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	78,667 MWh	1.6 %	
	高圧電力計	98,755 MWh	△6.0 %	
	合 計	177,422 MWh	△2.8 %	
車庫証明取扱件数【 2月】(諏訪地方合計)		936 件	△17.6 %	
新設住宅着工戸数【H24.4月～25.1月】(諏訪管内)		957 戸	2.9 %	

□本文は、当金庫の取引先約 130 社へのヒアリング調査による取りまとめ。

地域の概況

円安、株高傾向が続いた 2 月の諏訪地域では、受注増を見込む企業が増え、輸出関連企業を中心に企業マインドの改善が見られた。反面、有効求人倍率は全国や全県平均を下回り、工場の事業停止方針や希望退職を募る企業が出るなど、足元の厳しさは続いている。原材料の高騰も企業収益を圧迫する要因となっている。円安や原油価格の上昇でガソリンや灯油が毎週連続で上昇する中、諏訪 6 市町村で除雪費が底をつく降雪があり、商業や観光に影響を及ぼした。

●製造 「先行き受注増見込みの企業増えるも厳しい足元」

自動車部品関連の下請企業の足元の受注は、親企業の動向や加工内容、単価によってばらつきがあるが、年明け後になって増加に転じたり、今後の増加が見込める企業が増えている。金属部品加工の中には試作依頼が増加し、増産や新規受注に対応するための機械設備を計画する企業もある。工作機械などの産業設備は、米国向けは堅調な反面、中国や東南アジア向けでは先行き不透明感が残る。半導体関連では、メーカーの設備投資抑制で受注環境が悪化したことなどの要因で企業経営が悪化し、希望退職を募集する企業があった。植物工場の事業停止の動きも出ている。こうした中、「製造業はアベノミクス効果がすぐに現れず、受注量には変化が少ない。現状より悪くはならないが、劇的に良くなると思えない」という慎重な見方も多い。岡谷市では恒例の「ものづくりフェア」が開かれ、地元企業が技術力を示した。

●商業 「寒気と降雪が多方面に影響」

諏訪地方の 2 月の天候は、降雪の深さの月合計が 71 センチとなり、1953 年の長野地方気象台の統計開始以来、2 月として 1 位となった。原村でマイナス 17.6 度を記録するなど気温も低い日が多く、商業施設の客足に影響を与えた。寒さによる暖房需要がある中で、円安などによる原油価格の高止まり

で灯油の価格が上昇し、県内のレギュラーガソリンも9週連続で上昇した。白銀特需で除雪、融雪用品の売上が伸びた反面、店頭に出た春物衣料は振るわなかった。諏訪地域では、菓子の食べ歩きに多彩な催しを組み合わせた「スワいち」など街角イベントが各地で行われた。微少粒子状物質PM2.5や花粉対策商品も出始めた。自動車販売は、諏訪地方の2月の車庫証明件数(軽自動車除く)が936台と、前年同月比では200台減少(△17.6%)したが、前月比では128台増加(15.8%)している。軽自動車の売上也引き続き堅調だった。

●観光・サービス業 「笹子トンネル開通に安堵の声」

天井板崩落事故があった中央道笹子トンネルが、8日に全面開通した。バスツアーのキャンセルなどの影響を受けたスキー場や宿泊施設をはじめ、引越しシーズンを前にした運送業などから安堵の声が上がった。上諏訪温泉の宿泊客数は、前年同期比70%台～110%台で施設により区々となった。蓼科・白樺湖などの観光地は、トンネル事故の影響で首都圏からのスキー客が減少し、開通後も風評被害が懸念されたが、影響は少なかった。巻き返しに首都圏やサービスエリアでの誘客イベントが企画された。宿泊施設では燃料代など冬場の経費がかさみ、収益を圧迫している施設もある。諏訪大社の2月の参拝者数は約37千人で、前年同月比約6千人減少(△14.3%)した。

●建設業 「新設着工住宅が前年同月比増」

市町村の2月の発注工事は、土木工事・下水道工事38件、建築工事1件、その他工事9件の合計48件525百万円で、前年同月比で件数は3件、契約金額は253百万円の増加となった。県関係の2月の公共工事(地元業者受注分)は、18件360百万円となった。平成24年4月～平成25年2月の累計契約は182件4,103百万円で、前年同期累計比で件数は13件減少したが、契約金額は368百万円(9.9%)増加した。

民間工事は、諏訪地方の1月の新設住宅着工戸数が124戸と、前年同月比で55戸の増加(79.7%)となった。平成24年4月～平成25年1月までの累計着工戸数は957戸で、前年同期に比べ27戸の増加(2.9%)となっている。長野県内の1月の新設住宅着工戸数は755戸で、前年同月比7.6%の減少と5ヶ月ぶりに減少した。

●雇用 「全県、全国平均下回る有効求人倍率」

諏訪地域の1月の有効求人倍率は、前年同月比0.08ポイント減少、前月比同率の0.73倍となった。全国は0.85倍、長野県は0.83倍となっている。諏訪地域は昨年11月から、全県や全国との差が広がる傾向となっている。

諏訪地域の1月の新規求人(全数)は1,269人で前年同月比189人の減少(△13.0%)、新規求職者数は1,144人で前年同月比133人減少(△10.4%)した。業種別の前年同月比の新規求人数は、建設業で68.4%、卸・小売業で13.1%増加したが、製造業で43.7%、その他サービス業で21.1%減少した。1月の1件10人以上の人員整理は1件13人で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は178人で前年同月比135人、前月より28人それぞれ増加した。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板 プリンター	総体的に低調に推移している。 親企業の在庫調整で減産要請があり、受注減が続いている。大手は海外生産が主となり、受注量は昨年同月比で大幅減の企業が多い。
コンタクター・ リレー	工場用非常用電源装置は高水準となり、在庫不足状態。原料価格の高騰が懸念材料となっている。

2. 輸送用機械

自動車	受注が旺盛になった企業の一方で低調な企業もあり、受注先や加工内容などによってばらつきがある。コストダウン要請に加え、春ごろからの原材料や燃料の値上げなどの影響を懸念する企業もある。
ピストンリング・ シリンダーライナー 船外機	北米では増産傾向だが、国内工場の受注は昨年 11 月ごろから減少傾向が続いている。 生産調整から、増加傾向となりつつある。途上国向けの 2 サイクルエンジンも好調を維持している。

3. 一般機械

工作機械・専用機	完成品の輸出関連は売上増となっている。米国向けは活発化しているが、欧州や国内向けは回復感に乏しい。
搬送用機械 金型 ダイカスト	引き合いは増加傾向だが、競合が激しく受注単価も減少傾向。 増減あるが、総体的に低調に推移している。 加工分野や受注先により増減まちまちとなっている。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの 1 月の生産台数は 481 万台で前月比 3.9% の増加、前年同月比では 18.6% の減少となった。1 月の出荷台数は国内出荷 50 万台、海外出荷 421 万台の合計 471 万台。前月比 2.9% 減少、前年同月比は 15.5% 減少となっている。 業況が芳しくない大手の影響を受けている企業が多い。生産計画が当初計画より大幅に下回り、業界全体の受注が減少し、海外シフトで見積もり金額も非常に低い状況が続いている。
レンズ	コンパクトカメラがスマートフォンなどの影響を受け、レンズ加工も減少傾向となっている。

5. 繊維

ニット

生産の海外シフトが進み、春物の量産は低調になっている。

6. 食品

寒天

寒天製造は降雪が心配されたが、例年通りとなった。道の駅の売上は降雪、寒波で大幅に減少した。

味噌

大豆など原材料の価格が高騰し、円安などによる仕入れ価格上昇の影響がある。業務用味噌サーバーの需要が伸びている。

7. 製材

諏訪地方の1月の木造住宅着工戸数は73戸で、前年同月に比べ17戸の増加となり、やや動きが出ている。

8. 建設

公共工事

2月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所12件、林道治山工事関係4件、その他土木工事2件の合計18件で、契約金額は360百万円となった。平成24年4月～平成25年2月の累計契約は182件4,103百万円と前年同期累計比で件数は13件減少、契約金額は368百万円の増加となった。

市町村の2月の発注工事は、岡谷市の製糸関連施設整備事業建物改修工事など建築工事1件283百万円、土木工事及び下水道工事38件186百万円、その他工事9件55百万円の合計48件、525百万円で、前年同月比で件数は3件、契約金額は253百万円増加した。

民間工事

諏訪地方の1月の新設住宅着工戸数は124戸で、前年同月比では55戸の増加(79.7%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は11戸増加の63戸、「貸家」は45戸増加の57戸、「分譲」は同数の3戸となった。平成24年4月～平成25年1月の累計は957戸で、前年同期累計に比べ27戸の増加(2.9%)となった。利用関係別では「貸家」が69戸(51.1%)、「持家」が12戸増加(1.7%)した。「分譲」は53戸の減少(△54.1%)となっている。

また、長野県内の1月の新設住宅着工戸数は755戸で、前年同月比7.6%の減少となっている。なお、前年同月比の利用関係別では、「持家」が487戸で4.3%増加、「貸家」は196戸で31.7%の減少、「分譲」は59戸で3.5%の増加となった。長野県は男女とも平均寿命が全国1位の厚生労働省の発表もあって、地元不動産業界では都会に向けて、県内への移住PRを始めている。

9. 商業

衣料	低温や降雪の影響で例年売れる肌着類の売上が低調で、全体的に冬物と春物が中途半端な売れ行きとなった。
食料品	ニホンウナギの絶滅危惧種入りが公表される中、岡谷市の寒ウナギ祭りは例年以上の盛況ぶり。肉や魚類が好調で、青果関連は売上減少傾向だった。
家電製品	太陽光発電システムは関心の高さを維持。テレビやパソコンは低調だった。
自動車	年度替りの時期で最も需要が多く、販売各社が営業に力を入れている。軽自動車購入の傾向が強い。
ホームセンター	例年より降雪量が多く白銀特需となり、除雪機、鉄製の雪かき、融雪剤の需要が高まり、一部店舗では品薄状態になった。

10. 観光

上諏訪温泉	宿泊客数は施設により区々で、積雪が観光客の足が遠のく要因になった。春の観光に向けたバスツアーなどがある。
蓼科・白樺湖・車山等	前年比微増の施設が多いが、燃料代など冬場の経費がかさみ、低調な施設もある。富士見方面は笹子トンネル開通後は来場者、売上とも増加した。
下諏訪温泉	宿泊客数は、前月ほぼ横ばい。平日の売上確保が課題となっている。
諏訪大社	上社・下社合わせた2月の参拝者数は約37千人だった。上社幣拝殿屋根葺き替え工事や降雪などの影響で、前年同月比約6千人減少(△14.3%)した。

● 企業からのコメント

- ・ 11月まで生産調整で低調だったが、12月ごろから増加傾向になった。機械設備の更新を考える。(輸送機械製造)
- ・ 報道のわりに、地方中小企業の受注は伸びていない。大手は現地調達―生産―販売体制が整っており、円安による海外向けは期待できない。(輸送用機製造業)
- ・ 円安は原材料や燃料の高騰を招いており、中小零細の下請け企業にとってはむしろ逆風ではないか。(専用機製造業)
- ・ 受注は短期的に回復するかどうか分からない状況で、慌てて動くことなく当面は様子を見る。(金属加工業)
- ・ 小売価格の引き上げが始まる。売上減少要因になりそうで心配。(食品卸業)
- ・ 冬場は新規受注が少ないが、今年は都会からの移住者向け新築需要が多い。消費増税前の駆け込み需要が、東北復興とリンクした場合、資材高騰や品薄状態が予想される。(建設業)
- ・ 笹子トンネルは予定より早く開通し影響は少なかったが、積雪が多く観光客が遠のく要因になった。(旅館業)